板書例

3　蜂を見て

・蜂を見ての直接の感想

生きている蜂＝いかにも生きているもの
　忙しくはい回る
　拘泥する様子はない

死んだ蜂＝全く動かずに転がっている
　↓
　いかにも死んだもの
　いかにも静かな感じ

主人公の感想が強調されている

主人公は生きている蜂の姿と死んだ蜂の死骸とを比較（「せわしくせわしく……静かである。」（P 一九九・14）して、死んだ蜂に「全く動かず」「静かな感じ」を覚え、「その静かさに親しみを感じ」ている。

・蜂を見て連想したこと

「「殺されたる范の妻」を書こうと思った。」
　＝
「しまいに殺されて墓の下にいる、その静かさを書きたいと思った。」

主人公は蜂の死骸を見て感じた「静かさ」への「親しみ」を繰り返しながら、「何らか」ではなく「書きたい」と具体化させている。